

④0 釧路町セチリ太地区都市防災総合推進事業

受賞機関 北海道釧路町

キーワード 積雪寒冷地域に配慮した津波避難タワー

全建賞審査委員会の評価ポイント

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に伴う津波からの避難対策として、冬期の避難にも対応できる津波避難タワー4基を面的に整備し、避難困難地域を解消するとともに、寒冷地仕様の防寒対策・72時間以上自立稼働できる電源設備・循環式污水处理等を備えた全国的にも先進的な緊急避難場所を実現した点が評価された。

1. はじめに

釧路町は、北海道の南東部、釧路管内に位置し、北は釧路湿原、南は太平洋に面し、総面積25,266ha、人口18,466人の町である。平成5年の釧路沖地震をはじめ、多くの大規模地震により、人的被害や公共施設の被害を受け、住民生活に多大な支障を来した。

令和4年7月に公表された、日本海溝・千島海溝周辺海溝沿いの巨大地震被害想定では、死者数が最大5,700人、低体温症の要対処者数が4,300人と想定されており、冬期対策を含めた避難場所の確保が急務となった。

2. 事業の概要

セチリ太地区は、土地の高低差がほとんどない平地である。全域が浸水区域となっており、全域を避難対象地域としているものの、952世帯、1,577人の住民が津波の浸水開始までに避難場所へ避難できないと想定されている。

そのため、早期避難を可能にする避難場所として、屋内空間を備えた津波避難タワーを、令和5年度から令和7年度の3年間で計4か所に整備した。



津波避難タワー（いづみ公園）

3. 事業の成果

津波避難タワーには、冬期の避難にも対応できるよう、災害時に直ちに使用でき、かつ長期保管が可能なLPGボンベを備え、暖房設備の燃料として利用している。また、非常用発電機は、72時間以上連続で稼働できる燃料容量を備えている。発災時に商用電力が遮断された場合でも、非常用発電機に切り替えることが可能である。

トイレについても、循環式污水处理施設（処理水を洗浄水として再利用）を採用し、排水は微生物により分解・浄化した上で、洗浄水として再利用する。浄化過程では、釧路町仙鳳趾産のカキ殻をフィルター材として使用している。



津波避難タワー（内部避難室）

4. おわりに

津波避難タワーの整備により、避難困難地域が解消されるとともに、避難場所までの距離が短縮され、短時間での避難が可能になった。

令和7年7月に発生したカムチャツカ半島付近の地震では、津波警報が発表され、約490人が津波避難タワーへ避難した。

今後、地震が発生した際にも、津波避難タワーを有効に活用し、町民が安全に避難できることが期待される。